

# 臨床研修カリキュラム

# 《 内科全般 》

## 研修目的

すべての内科医に必須の基本的診療の知識・技能を修得し、あわせて医師としての正しい態度を養う。

- (1) すべての内科医に求められる初期診療を含む基本的な診断・検査・治療技能を身に付ける。
- (2) 患者を医学的のみならず全人的にとらえ、患者との間に真の意味の正しい人間関係を確立し得る能力を養う。特にインフォームド・コンセントに関する正しい修練を受ける。
- (3) 医療チームにおける医師の義務、役割を十分に理解し、コメディカルスタッフとの真の意味の協調性を身につける。
- (4) 内科患者に他科疾患が併発した場合、他科との連携に関する適切な判断を可能にする修練を受ける。
- (5) 慢性疾患患者の健康管理、生活指導、社会復帰について、ケースワーカーなどとの協力により適切な処置ができる能力を養う。
- (6) 正しい日常診療の実施、正しいインフォームド・コンセントの実行のため、常に内外の医学情報を把握する習慣をカンファレンス、学会、文献等を通して身につける。

## 《 呼吸器内科 》

### 1) 研修目的

呼吸器に関する専門的検査、治療手技を習得しながら、呼吸器疾患全般に対する診断・治療を学ぶことを目的とする。

### 2) カリキュラム

- ① 呼吸器疾患患者を主治医として受け持ち、指導医の指導のもとで診断・検査・治療を行う。
- ② 週1回の呼吸器カンファレンスを通して、診断の進め方、治療方針に関する考え方を学ぶ。
- ③ 呼吸器救急患者における診断・検査・処置を実際に介助しながら指導医の指導のもと研修する。
- ④ 気管支鏡検査及び適時行う胸腔穿刺などの手技を学ぶ。
- ⑤ 読影会において、胸部 X-P、胸部 CT、気管支鏡検査の読影技術の向上に努める。
- ⑥ 関連大学におけるレントゲン読影会及び研究会に参加し、新しい知識の習得に努める。

## 《 消化器内科 》

### (1) 研修目的

上・下部消化管及び肝・胆・膵等における消化器疾患の診断、治療とそれに伴う検査、治療手技の基本的手技を習得すること。

### (2) カリキュラム

- ① 消化器疾患患者（10名以上）を主治医として受け持ち、指導医の指導のもとで診断・検査・治療を行う。
- ② カリキュラムガイドラインに沿って基本的検査、処置を習得し、診断治療に必要な検査および治療手技について指導医の指導のもと研修を行う。
- ③ 消化器救急患者における診断、検査、処置を実際に介助しながら、指導医の指導のもと研修する
- ④ 週1回の消化器内科カンファレンスに参加し診断の進め方、治療方針について考え方を学ぶ。
- ⑤ 読影会において、上部・下部消化管造影および内視鏡検査の読影技術の向上に努める
- ⑥ 外科・放射線科・病理の合同カンファレンスにて検査、診断、治療の妥当性について評価、検討する。

# 《 循環器内科 》

## 1) 研修目的

- ① 循環器疾患の診断学及び治療学を学ぶ
- ② 循環動態の把握と管理を学ぶ
- ③ 救急医療の知識と技術を学ぶ

## 2) カリキュラム

### 基本的な循環器診察法・検査・手技

- ① 循環器疾患の問診、理学検査法（視診、触診、聴診）の修得
- ② 血液生化学所見及び血液学所見の評価法の修得  
一般検査、便検査、血算、白血球分画、血液型判定、交差適合試験、動脈血ガス分析、血液生化学検査（血糖、電解質、肝機能、腎機能等）、血液免疫血清学的検査、細菌学的検査・薬剤感受性検査
- ③ 12誘導心電図、胸部X線写真、トレッドミル運動負荷心電図、心エコー図（経胸壁、経食道）の施行技術と評価法の修得
- ④ 救急疾患の病態の把握と診断技術の修得
- ⑤ 心臓カテーテル検査（右心、左心カテーテル）及び冠動脈造影法の修得
- ⑥ 経皮的冠動脈形成術（PTCA及びnew device）の手順の修得
- ⑦ 心臓電気生理検査法（心内電位、His束電位、overdrive suppression等）の修得
- ⑧ 高周波カテーテルアブレーションの手順の修得
- ⑨ 体外式一時ペーシング、IABP、PCPS挿入技術と管理方法の修得
- ⑩ 永久ペースメーカー植え込み手術及び術後管理の修得
- ⑪ 気管内挿管、人工呼吸器の修得救急心肺蘇生法の修得
- ⑫ 救急心肺蘇生法（気道確保、人工呼吸、心マッサージ、圧迫止血法、包帯法）の修得
- ⑬ 注射法、採血法、穿刺法（胸腔、心嚢）、導尿法、ドレーン・チューブ類の管理、胃管の挿入と管理、気管切開チューブの管理、局所麻酔法、創部消毒とガーゼ交換、簡単な切開・排膿、皮膚縫合法、軽度の外傷・熱傷の処置

### 基本的循環器治療法

- ① 療養指導（安静度、体位、食事、入浴、排泄、環境整備等）
- ② 各種循環器治療薬の作用機序の理解と使用法及び副作用・相互作用の修得
- ③ 輸液、輸血（成分輸血を含む）の実施、効果と副作用の理解

### 医療記録

- ① 診療録をPOSに従って記載
- ② 処方箋、指示箋の作成
- ③ 診断書、死亡診断書の作成

患者の臨終

- ・死亡の判定と宣告
- ・生命維持装置などの停止と挿入チューブ類の抜去
- ・死亡診断書の作成
- ・家族への説明
- ・病理解剖への立ち会い

④ CPC レポートの作成、病例呈示

⑤ 紹介状とその返信

#### 経験すべき症状・病態

- ② 不眠、浮腫、リンパ節腫張、発疹、頭痛、めまい、視力障害・視野狭窄、結膜充血、胸痛、動悸、呼吸困難、咳・痰、嘔吐、腹痛、便通異常（下痢、便秘）腰痛、四肢のしびれ、血尿、排尿障害（尿失禁・排尿困難）
- ③ 心肺停止、ショック、意識障害、脳血管障害、急性心不全、急性冠症候群、急性腹症、急性消化管出血、外傷、急性中毒、熱傷

#### 経験が求められる循環器疾患・病態

- ・ 急性心筋梗塞
- ・ 狭心症
- ・ 心臓弁膜症
- ・ 心筋症（拡張型及び肥大型）
- ・ 高血圧（本態性及び二次性）
- ・ 不整脈（頻脈性及び徐脈性）
- ・ 心不全
- ・ 肺動脈血栓塞栓症
- ・ 大動脈疾患（動脈瘤、DAA、ASO 等）
- ・ 慢性、急性動静脈疾患

#### 救急医療

① 心肺停止に対する処置

#### 予防医学

① 硬化に対する危険因子の管理。指導

上記各種検査方法、治療法を駆使して循環器疾患の診断、病状の把握及び治療について、一般病棟及び I C U 病棟の患者の治療を通して学ぶ。

# 《 腎臓病科・人工臓器部 》

## 1) 研修目的

腎臓病を体系的に把握し適切な診療・診断技術を身につけ、さらに治療技術の修練を目的とする。さらに腎不全に代表される臓器不全状態の患者管理とそれに対する血液浄化療法の修得を行い、それによって治療技術の進歩に即応した医師となる。

## 2) 所属者の目標項目

### I、病態の把握

- ① 腎臓の生理、解剖、病理の理解
- ② 腎機能検査の理解と正常値の把握
- ③ 腎機能障害の分類、病態の把握
- ④ 急性腎不全の病因、病態、診断手順、治療法の理解
- ⑤ 慢性腎不全の病因、病態、診断手順、保存療法の理解
- ⑥ 血液浄化療法導入の適応、手順の理解
- ⑦ 急性血液浄化療法の種類、適応病態、手技の理解
- ⑧ 慢性透析療法の種類、病態、手技の理解

### II、具体的な修練

- ① 腎機能障害患者の診断手順、検査値把握の修練
- ② 腎生検の適応と手技の実際、病理診断の修練
- ③ 腎機能障害患者に対する保存療法の修練
  - (ア)薬物療法
  - (イ)食事療法
  - (ウ)生活指導
- ④ 保存期腎不全患者の管理の修練
  - (ア)薬物療法
  - (イ)食事療法
  - (ウ)生活指導
- ⑤ 導入期患者の管理
  - (ア)薬物療法
  - (イ)透析導入適応・時期の把握
  - (ウ)導入期の透析方法と管理
    - ブラッドアクセス作製、管理
    - 中心静脈留置カテーテル挿入の修練
- ⑥ 安定透析患者の透析法の修得
  - (ア)透析回路の設置
  - (イ)透析開始終了

- (ウ)透析中の管理
- (エ)検査データの管理
- (オ)薬物療法
- ⑦ CAPD の適応と患者選択、
  - (ア)カテーテル挿入手技、
  - (イ)バック交換手技、
  - (ウ)透析液の選択
- ⑧ その他の血液浄化技術
  - (ア)血漿交換回路の設置、開始、管理
  - (イ)HDF、HF 回路の設置、開始、管理
- ⑨ カンファレンス



# 《 小 児 科 》

## 研修目的

小児の生理は成人と異なっており、発達に応じて変化する物である。  
当院における研修の目的は各年齢における小児の生理と病態を把握し、臨床医として患者を1人の人間として対応出来るようになることである。  
そのために、基礎知識と技術を習得し、経験を積むことが必要である。

## 研修目標

### (1) 発達について

- ① 乳児健診において、乳児の発達度合を理解し、精神運動発育遅滞を認識。
- ② 両親に対する栄養指導、育児指導、助言ができる。
- ③ 哺乳困難児に対する経管栄養の手技の取得、栄養指導ができる。

### (2) 感染症について

- ① 一般外来に受診する急性ウイルス性疾患を診断・治療計画に立案。
- ② 予防接種の指導が出来る。
- ③ 各種培養の陰体の採取。
- ④ 流行性伝染性疾患（麻疹、風疹、水痘など）の診断・治療計画の立案。
- ⑤ 重症感染症（肺炎、敗血症など）の診断・治療計画の立案。

### (3) 未熟児・新生児について

- ① 新生児健診を通じて、正常新生児の生理を理解。
- ② 病的新生児の認識と治療計画の立案。
- ③ 出席時の状態の評価とケア。
- ④ 早期産児の生理及び未熟性に基づく病態の理解。
- ⑤ 低出生体重児の治療計画の立案。

### (4) 循環器疾患について

- ① 年齢に応じた性状心電図の理解。
- ② 先天性心疾患の血行動態の理解。
- ③ 心エコーの技術の習得。
- ④ 川崎病の診断と治療計画の立案。

### (5) 神経疾患について

- ① 髄膜刺激症状の認識。
- ② 痙攣性疾患の理解と救急対処法の立案。
- ③ 脳波所見の判読。
- ④ C T、MR I 所見の判読。

(6) 小児喘息について

- ① 喘息発作時の対処法の立案。
- ② 喘息管理ガイドラインの理解。
- ③ 使用薬物の使用法ならびに薬効の理解。

# 《 一般外科 》

## 研修目的

外科医基礎知識の習得

### 1) 配属者の目標項目

- ①一般外科の基本診断技術 ——
- ・ 予診取り
  - ・ 理学的所見の採取
  - ・ 一般的検査の order
  - ・ 心肺肝腎機能評価
  - ・ 細菌学的検体採取（血、痰、尿、浸出液、排液）
  - ・ 簡単な検査技術（肛門鏡、直腸鏡、吸引細胞診、  
超音波エコー、血管造影）

- ②基本処置治療 —————
- ・ 消毒、滅菌、清潔
  - ・ 静脈確保
  - ・ 動脈血採取
  - ・ エラスター挿入
  - ・ IVH 挿入
  - ・ 外傷、熱傷処置
  - ・ 感染創処置
  - ・ 水、電解質管理
  - ・ 疼痛管理
  - ・ 各種ドレーン管理
  - ・ 胃管挿入
  - ・ 外傷、火傷処置
  - ・ IVH、栄養輸血管理
  - ・ 胸腔ドレーン挿入
  - ・ イレウス管挿入
  - ・ ダブルルーメン挿入

- ③手術手技 —————
- ・ 手洗いガウンテクニック
  - ・ 手術器具の取り扱い方
  - ・ 局所麻酔法
  - ・ 各種手術第2助手
  - ・ 小手術第1助手
  - ・ 開腹、閉腹マスター
  - ・ 虫垂切除術々者

- ・ヘモ、ヘルニア術者
- ・皮下小腫瘍術者
- ・気管切開（挿管）
- ・摘出標本処理法、写真撮影法

④外科的知識

- 
- ・カンファレンス
  - ・抄読会
  - ・廻診
  - ・CPC
  - ・院外学会、研究会参加
  - ・患者家族への対応

# 《 心臓血管外科 》

## 研修目的

心臓血管外科研修期間中に臨床医として、また心臓外科医師及び血管外科医師として初期診療における心臓血管外科的応急処置ができ、また手術を主とした適正な治療法の選択及び治療の実施、ならびに治療の補助ができるようになるために、基本的な心臓血管外科的知識、技術及び態度を習得する。

## 研修目標

- 1) 心臓血管外科における基本的診療法を身につける。すなわち、外来及び入院患者の診察にあたっては、病歴及び各種記録を正確且つ簡明に記録する。また、それらの会話の中で出来るだけ早く患者、及び家族の特性や背景を知り、その後の診察や説明の際に役立てる。これは、患者を全人格的にとらえて診療を行う上で重要であり、また心臓血管外科以外の疾患についての診断の糸口となることもある。
- 2) 心臓血管外科医師として必要な基本的診療法（視診、触診、聴診）、検査技術法、及び特殊検査技術法（心エコー法、血管造影法など）を正しく習得し、結果の判断ができるようにする。
- 3) 心臓血管外科における基本的手技を習得する。
  - ① メス、ハサミの持ち方、糸結び
  - ② 動脈穿刺及び観血的動脈圧測定のための動脈ラインの確保
  - ③ 中心静脈ルート確保
  - ④ スワナーガンズカテーテルの挿入留置
  - ⑤ 主要末梢血管の露出及び確保
- 4) 心臓血管外科における手術
  - ① 手術器具の名称、使用法を知る。
  - ② 外来小手術が指導医のもとで執刀できるようになる。
  - ③ 入院小手術が指導医のもとで執刀できるようになる。
  - ④ 大手術の助手につき、手術時の解剖、手術の方法、手順につき説明できる。
  - ⑤ 手術の適応と限界について判断できるようになる。
  - ⑥ 術前及び術後の循環、呼吸、代謝系の管理が十分にできる。
- 5) 治療にあたってはすべての患者に対して手術的治療が最良であるとは限らない。適正な診断のもとに適切な治療法を選択することが大切であるが、どの治療法を選択するのかの選択権は最終的には患者にある。総合的画像診断などにより患者の病態を適確に把握し、診断から適切な治療法について十分に説明し、納得

してもらってから治療を開始する。すなわち正しいインフォームドコンセントのあり方について習得する。

- 6) 患者を中心とした医療が常にできるよう看護師、技師、ケースワーカー、事務職員の仕事を理解し、お互いを尊重しあってよいチームワームのもとに仕事ができるように努める。
- 7) 患者の退院転院に際しては、その退院時総括および患者報告書、紹介状などを適切に作成できるようにする。
- 8) 患者の死亡に際しては、指導医とともにその遺族に剖検の許可をお願いし、剖検に立ち会って内容を理解し、診療経過と対照し学び、家族に報告する習慣をつける。
- 9) 院会各カンファレンスへの出席  
心臓血管外科症例検討会、循環器内科心臓血管外科合同症例検討会、CPC などには必ず出席する。

#### 研修カリキュラム

- 1) 心臓血管外科病棟において指導医のもとに前記研修目的の内容にそって知識を得、技術を習得する。
- 2) ベッドサイドでの研修を通じて心臓血管外科医としての専門的修練を積み、心臓血管外科医として基本的に要求される診断、治療の習得を果たすとともに、医師としての倫理感の確立に努める。
- 3) 入院患者を受け持ち、指導医とともに診断、治療法の選択について検討し、患者と話し合っ十分なインフォームドコンセントのもとに治療を進めていくこと。
- 4) 外来での小手術（下肢動脈瘤硬化療法など）が術者として行えるようになること  
また、局麻下での動脈血栓摘除術、開心術においては助手として手術の補助ができるようになること。

# 《 整形外科 》

## 研修目的

- 1) 整形外科総論を理解する。
- 2) 整形外科と他科との境界領域を把握する。
- 3) 基本的な整形外科的診療法を習得する。
- 4) 外傷を含む一般的な整形外科的疾患の検査、診断、治療計画が立てられる。
- 5) 外傷一般に対する適切な処置、ならびに初期治療が実行できる。
- 6) リハビリテーション総論を理解したうえで、整形外科疾患に対し具体的なリハビリテーションプログラムを立て、それを実行、評価する。

## 研修カリキュラム

### 1) 整形外科的診療法

- ① 関節可動域、筋力などの計測
- ② 神経学的所見の取り方
- ③ 四肢末梢血液循環動態の把握

### 2) 外傷に対する検査、診断、初期治療

- ① 四肢ならびに脊椎単純写真の撮影方法の指示と読影
- ② 総傷処置（消毒、止血、洗浄、デブリードマン、皮膚縫合など）
- ③ 切断肢指の処置と保存
- ④ 骨折、脱臼の整復
- ⑤ 頭蓋ならびに四肢牽引
- ⑥ 副子固定、脊髄液の採取
- ⑦ 四肢コンパートメント内圧測定

### 3) リハビリテーションプログラム

- ① 四肢、脊柱の外傷、ならびに一般的な整形外科慢性疾患に対するリハビリテーションのプログラム立案と実行
- ② リハビリテーションの効果に対する客観的評価

# 《 産婦人科 》

## 一般目標

- (1) 女性特有の疾患による救急医療を研修する。
- (2) 女性特有のプライマリケアを研修する。
- (3) 妊産褥婦ならびに新生児の医療に必要な基本的知識を研修する。

## 行動目標

### A. 経験すべき診察方法・検査・手技

1. 基本的産婦人科診察能力
  - 1) 問診および病歴の記載
  - 2) 産婦人科診察法
2. 基本的産婦人科臨床検査
  - 1) 婦人科内分泌検査
  - 2) 不妊検査
  - 3) 妊娠の診断
  - 4) 感染症の診断
  - 5) 細胞診・病理組織検査
  - 6) 内視鏡検査
  - 7) 超音波検査
  - 8) 放射線学的検査
3. 基本的治療法
  - 1) 処方箋の発行
  - 2) 注射の施行
  - 3) 副作用の評価ならびに対応

### B. 経験すべき症状・病態・疾患

1. 頻度の高い症状
  - 1) 腹痛
  - 2) 腰痛
2. 緊急を要する症状・病態
  - 1) 急性腹痛
  - 2) 流・早産および正常産
3. 経験が求められる疾患・病態
  - 1) 産科関係  
正常妊娠産褥、正常分娩、正常新生児、帝王切開、産科出血
  - 2) 婦人科関係  
婦人科良性腫瘍、婦人科性器感染症、婦人科悪性腫瘍
  - 3) その他  
母体保護法、家族計画



C. 産婦人科研修項目の優先順位

1. 産科関係

妊娠の診断、正常妊婦の外来管理、正常分娩産褥、新生児の管理  
複式帝王切開術の経験、流・早産の管理

2. 婦人科関係

婦人科良性腫瘍、婦人科性器感染症、婦人科悪性腫瘍

D. 産婦人科研修項目（経験すべき症状・病態・疾患）と「臨床研修の到達目標」との対応

妊娠の検査・診断

正常妊婦の外来管理

正常分娩第一期ならびに第二期の管理

正常産褥の管理

正常新生児の管理

複式帝王切開術の経験

流・早産の管理

産科出血に対する応急処置法の理解

産科を受診した腹痛、腰痛を呈する患者、急性腹症の患者の管理

婦人科良性腫瘍の診断ならびに治療計画の立案

婦人科良性腫瘍の手術への第2助手としての参加

婦人科性器感染症の検査・診断・治療計画の立案

婦人科を受診した腹痛、腰痛を呈する患者、急性腹症の患者の管理

不妊症・内分泌患者の外来における検査と治療計画の立案

## 《 麻酔科 》

### 1) 一般目標

- ① 手術中の麻酔管理を通して気道確保、気管内挿管、呼吸・循環管理を習得し、救急患者や重症患者の診療における基礎的知識と技術を身につける。
- ② 短時間で的確に全身状態を評価し、最適の麻酔方法・全身管理に必要な治療法を選択できる判断力を養う。
- ③ 他科医師やコメディカルとの協調性を保ち、円滑なチーム医療が出来る能力を養う。

### 2) 研修目標

- ① 各科からの麻酔申込書を元に術前患者の問題点を端的に拾い上げ、術前診察を通して患者の全身状態を的確に評価し、最も安全で適切なますプランを組み立てる。
- ② 麻酔管理に必要な各種知識や手技を習得する。(点滴確保、マスク換気、気管内挿管、人工呼吸等)
- ③ 各種モニターの使用法と評価法を修得する。(心電図、酸素飽和度、呼気炭酸ガス濃度、動脈圧、肺動脈圧、中心静脈圧、心拍出量、混合静脈血酸素飽和度、体温)
- ④ 呼吸循環管理に必要な各種薬剤の知識を身につけ的確に使用できる。
- ⑤ 局所麻酔の知識と手技を身につける。(脊椎麻酔、硬膜外麻酔、各種神経ブロック)
- ⑥ 手術室で行う各種緊急検査の評価と的確な対処法を修得する。(未血、電解質、血糖値、動脈血ガス分析)
- ⑦ 麻酔管理の知識を応用し、集中治療室における呼吸循環管理を行う。
- ⑧ 救急蘇生法を修得する。
- ⑨ 麻酔科が中央診療科であることを認識し、他科の医師や医療スタッフと密接に連絡を取りながらチームワーク医療ができる人間性を養う。
- ⑩ 麻酔科をはじめ、院内各種のカンファレンスや症例検討会に出席し見聞を広める。

# 《 皮膚科 》

## 研修目標

- 1) 皮膚科患者の問診を行い、診断に必要な事項を聞き出し、記録できる。
- 2) 皮膚科的一般診察を行い、皮疹の所見を正確に記録できる。
- 3) 皮膚科の基本的な検査法を実施できる。
  - ① 真菌検査法 (KOH 検査、培養)
  - ② パッチテスト
  - ③ 光線過敏性試験
  - ④ 皮膚組織生検
- 4) 皮膚科の基本的処置ができる。
  - ① 軟膏処置 (重層法)
  - ② 熱傷処置
  - ③ 創傷処置
  - ④ 鶏眼処置
  - ⑤ 切開非膿処置
  - ⑥ 難属腫摘除法
  - ⑦ 面疱圧出法
- 5) 皮膚科の基本的治療法ができる。
  - ① 抗ヒスタミン剤、抗アレルギー剤治療
  - ② 外用療法 (ステロイド外用療法を含む)
  - ③ ステロイド全身療法
  - ④ 光線療法 (PUVA 療法)
  - ⑤ 凍結療法
  - ⑥ 化学療法 (細菌、ウイルス、腫瘍)
  - ⑦ 抗真菌療法
- 6) 基本的な皮膚科疾患の診断、治療計画が立案できる。
  - ① 湿疹、皮膚炎群 (接触性皮膚炎、脂漏性湿疹、アトピー性皮膚炎など)
  - ② 蕁麻疹、中毒疹
  - ③ 真菌感染症 (浅在性真菌症、深在性真菌症)
  - ④ 細菌感染症 (丹毒、蜂窩織炎、膿痂疹)
  - ⑤ ウィルス感染症 (風疹、麻疹、水痘、帯状疱疹など)
  - ⑥ 水疱症 (天疱瘡、類天疱瘡など)
  - ⑦ 角化症、炎症性角化症 (尋常性乾癬,扁平苔癬など)
  - ⑧ 熱傷
  - ⑨ 皮膚腫瘍

7) 基本的な皮膚科手術手技が実施できる。

- ① 皮膚、皮下腫瘍摘出術
- ② 植皮術
- ③ 形成外科的手技

8) その他

各種カンファレンスへの参加

- 1. 病理組織検討会
- 2. 症例検討会
- 3. 抄読会

# 《 臨床病理 》

## 研修目的

大学の病理学教室で経験しえない雑多な日常業務の中から、一般的に勤務する人体病理医に必要な最低限の知識、最大限の常識、及び実際の技術を習得する。また、病理認定医資格、或いは細胞診指導医資格取得に必要な症例数を経験する。

研修カリキュラムは、上記目的達成のため、研修医の経験年数、診断能力に応じて病理確定医、或いは細胞診指導医が個別に対応する。

## 研修目標

- 1) 基本的標本作製技術について原因を推察できる
  - ① 不良永久組織標本について原因を推察できる
  - ② 不良凍結迅速診断用標本について原因を推察できる
  - ③ 不良細胞診断用標本について原因を推察できる
  
- 2) 基本的診断過程の習得
  - ① 臨床情報の収集能力
  - ② Common Case、Rare case の鑑別
  - ③ 迅速か適切な解剖技術
  
- 3) 基本的報告書作成技術
  - ① 病理組織診断
  - ② 細胞診診断
  - ③ 解剖報告書
  
- 4) 診断過程の向上
  - ① 腫瘍、非腫瘍の鑑別
  - ② 確定診断に最低限必要な特殊染色、免疫染色の選択
  - ③ 確定診断の再現性の維持
  
- 5) 臨床への口頭でのプレゼンテーション能力の習得
  - ① 病理組織診断
  - ② 細胞診診断
  - ③ 解剖報告
  
- 6) その他
  - ① 得意領域への指向性の確認と維持
  - ② 症例報告技術（学会発表、論文など）
  - ③ 教育的業務への参加

# 《 放射線科 》

## 研修目標

放射線診断についての基本的知識及び技術を放射線専門医の下に研修する。

## 放射線診断についての研修カリキュラム

- 1) X線単純写真の読影 10件/日
  - ① 胸部、腹部、骨単純写真の正常解剖を理解し、病態による変化を学ぶ。
  - ② 読影の基本的トレーニングを行う。
  
- 2) CT検査の実態と読影 5件/日
  - ① CTの原理を理解する。
  - ② 全身CT像の正常解剖を理解し、病態による変化を学ぶ。
  - ③ 読影の基本的トレーニングを行う。
  - ④ Spiral CT、3D・CTの検査法、読影法についても研修する。
  
- 3) MRI検査の実際と読影 5件/日
  - ① MRIの原理を理解する。
  - ② 頭部及び全身のMRI像の正常解剖を理解し、病態による変化を学ぶ。
  - ③ 読影の基本的トレーニングを行う。
  - ④ 造影MRIについても、造影剤の体内での動態、造影法による画像の変化、投与の適応を理解する。
  
- 4) 血管造影の実際と読影 2件/週
  - ① 血管造影の基本、特にセルジンガー法の実際について研修する。
  - ② 肝胆膵、泌尿器科、産婦人科、血管外科、脳神経外科領域の血管造影法、及び血管造影を用いた治療的手技についても研修する。
  - ③ 造影剤の体内での動態、血管内造影検査の内容・手技、その副作用による危険とその適切な救急処置法・対策法、且つそれを適切に患者に説明できるように研修する。
  
- 5) 消化管造影検査の撮像方法と読影 5件/週
  
- 6) 経静脈性胆道造影、経静脈性尿路造影の撮像方法と読影 2件/週
  
- 7) 各種カンファレンス及び抄読会への参加

# 《 精神科 》

## 1) 精神科の基本的疾患についての鑑別診断と対処

- ① 神経症、心身症
- ② うつ病、うつ状態
- ③ 精神病、精神分裂病
- ④ アルコール依存症
- ⑤ 認知症 など

## 2) 精神科面接

- ① 患者の精神、心理、社会面に焦点をあてた面接
- ② 患者の生活史上の問題点を把握する面接
- ③ 受容的、中立的態度
- ④ 逆転移を認識した面接

## 3) 精神的現症のとり方

## 4) リエゾン精神医学的立場から他の診療科と協力して診療する技法の習得

## 5) 精神科における基本的検査の習得

- ① 心理検査（知能検査、性格検査）
- ② 神経心理学的検査
- ③ 脳波検査
- ④ 頭部 CT、MRI

## 6) ICD-10 や DSM-IV による診断

## 7) 治療計画を立て実施し、結果を評価する能力の向上

- ① 向精神薬の適切な選択使用
- ② 精神療法の基本の習得（個人精神療法、集団精神療法、家族精神療法）
- ③ 社会復帰活動や在宅ケアについての知識の習得
- ④ 自殺防止
- ⑤ 作業療法

## 8) 精神保健福祉法の理解

## 9) 精神症状評価尺度

# 《 救急 》

## 【研修到達目標】

生命や機能予後に係わる、緊急を要する病態や疾病、外傷に対して適切な対応をするために、

- 1) バイタルサインの把握ができる。
- 2) 重症度および緊急度の把握ができる。
- 3) ショックの診断と治療ができる。
- 4) 二次救命処置（ACLS、呼吸・循環管理を含む）ができ、一次救命処置（BLS）を指導できる。
- 5) 頻度の高い救急疾患の初期治療ができる。
- 6) 専門医への適切なコンサルテーションができる。
- 7) 大災害時の救急医療体制を理解し、自己の役割を理解できる。

## 【経験目標】

### 1. 基本的な身体診察法

Primary Survey, Secondary Survey アプローチにより優先順位に基づいて迅速に全身評価する。

### 2. 基本的臨床検査

A ; 自ら実施し、結果を解釈できる検査

血液ガス、心電図 12 誘導、超音波エコー

B ; 検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる検査

血算、緊急生化学検査、尿検査、胸腹部単純 X 線、CT、MRI、細菌学的検査、髄液検査、便検査、緊急内視鏡

### 3. 基本的手技

- ① 用手気道確保、気管挿管、気管切開
- ② 人工呼吸（バッグマスクによる徒手換気含む）
- ③ 胸骨圧迫心臓マッサージ
- ④ 圧迫止血法
- ⑤ DC ショック
- ⑥ 静脈路確保（末梢、中心静脈、スワンガンツ、血液浄化用ブラッドアクセス）および注射法（皮内、皮下、筋肉、静脈内）
- ⑦ 採血法（静脈、動脈）
- ⑧ 穿刺法（腰椎、胸腔、腹腔）
- ⑨ 導尿、胃管挿入管理
- ⑩ 各種ドレーン・チューブ挿入・管理



⑪局所麻酔

⑫軽度の外傷・熱傷処置

#### 4. 基本的治療法

①輸液・輸血療法

②薬物療法

③呼吸状態に基づいた呼吸管理

人工呼吸管理の適応・管理の実際・合併症・離脱

人工呼吸器の組み立て，人工呼吸中の患者の評価，肺理学療法

④循環評価に基づいた循環管理

循環モニターの適応・評価とカテコールアミン使用法

循環器系モニターの準備，取り扱い

⑤体液電解質・栄養管理

体液電解質・栄養状態の評価と管理

⑥血液浄化法

各種血液浄化法の適応・管理の実際・合併症・離脱

血液浄化法の回路の組立，取り扱い，施行中の管理

⑦胃洗浄

適応・管理の実際・合併症

#### 5. 医療記録

①診療録を POS に基づいて作成

②診断書、死亡診断書（検案書含む）を作成・管理

③患者家族面接におけるインフォームドコンセントと記録

④CPC レポートの作成、症例提示

#### 【経験すべき病態・疾病】

(1)心停止（院外心停止救急隊搬入症例，院内心停止応援要請症例）

(2)外傷（多発外傷，頭部外傷，胸部外傷，腹部外傷，脊椎四肢骨盤外傷）

(3)重症熱傷

(4)急性中毒（薬物，農薬，一酸化炭素）

(5)循環器系疾患（解離性大動脈瘤，腹部大動脈瘤破裂，急性広汎性肺塞栓，急性心筋梗塞，急性心不全，アナフィラキシーショック）

(6)呼吸器系疾患（重症肺炎，ARDS，喘息重積発作，COLD 急性増悪）

(7)中枢神経系疾患（脳血管障害，痙攣重積発作，髄膜炎，溺水，蘇生後脳症）

(8)急性腎不全・急性肝不全・敗血症・多臓器不全

(9)消化器系疾患（重症急性膵炎，上腸間膜動脈塞栓症）

(10)神経筋疾患（熱射病，悪性症候群，重症筋無力症，ギランバレー症候群）

(11)代謝性疾患（糖尿病性昏睡，甲状腺クリーゼ）

(12)術後（心臓手術，胸部大動脈手術，食道手術，その他の大侵襲手術）

## 《 地域医療 》

### 研修目的

高齢者による種々の問題を理解するため、一般高齢者の疾病構造、身体的衰退状況、および個々の高齢者の置かれた家庭環境や社会的背景等について学習し、もって個々の状況や病状に即した適切な医療処置、医療サービスや Care（世話）などが Primary Care 医として実施できるようになることを目的とする。

予防医療とは、疾病の予防、生命の延長、身体的・精神的な健康と能率の増進を図るための医療である。予防は、第一次予防、第二次予防、第三次予防に区分される。第一次予防は、身体的疾病・精神的情緒的障害・外傷などの健康障害の発生防止と健康増進であり、第二次予防は、健康障害の早期治療による障害の進行防止と生体機能の最大限の保全である。第三次予防はすでに疾病に罹患してしまったものが対象で、適切な治療と患者管理・指導によって障害による生体機能の損失と生活の質の低下を最小限に防止し、社会復帰を図るものである。中島土谷クリニックにおいては、このうち第一次予防（健康教育）と第二次予防（健康診断）について主として研修を行う。

### 研修カリキュラム

- ① 家庭復帰を目指して ADL 向上に努める療養患者に必要な医学的・社会的支援、日常生活上の介護処置等について学習する。
- ② 患者個々についての社会的背景（疾病の職業と関係、家庭環境、身体的・精神的障害の状況、社会復帰の可能性など）をもよく理解し、適切な対処法を学習する。
- ③ 各種慢性疾患に対する予防的医療処置としての食餌・栄養療法、種々の運動・機能訓練法（リハビリテーション療法）等について学習する。
- ④ 認知症を合併する患者に対する適切な医療および介護処置、社会生活上の助言・指導等について学習する。
- ⑤ 在宅患者とその家族に対する適切な医療上・社会生活上の指導について学習する。
- ⑥ 第一次予防のために、どういった点に留意するかを疾病毎（癌、心臓病、高血圧、消化管疾患、肝胆膵疾患、糖尿病、脳血管障害、腎臓病、呼吸器疾患、血液疾患、AIDS、筋骨格系疾患、感覚器疾患、ストレス性健康障害など）に理解する。
- ⑦ 第二次予防（健康診断）については、法的には主に老人保健法などによる地域の健康管理、学校保健法による学校での健康診断、労働安全衛生法による職場の一般健康診断という規定がある。
- ⑧ 老人保健法などによる地域の健康診査の概要の理解
- ⑨ 学校保健法による健康診断の概要の理解
- ⑩ 労働安全衛生法による職場の一般健康診断、ならびにじん肺法に基づく健康診断などの特殊健康診断についての理解
- ⑪ 健康診断の実践と医学的事後処理（所見判定、ならびに医学的指導）
- ⑫ 食事指導・運動療法の指導